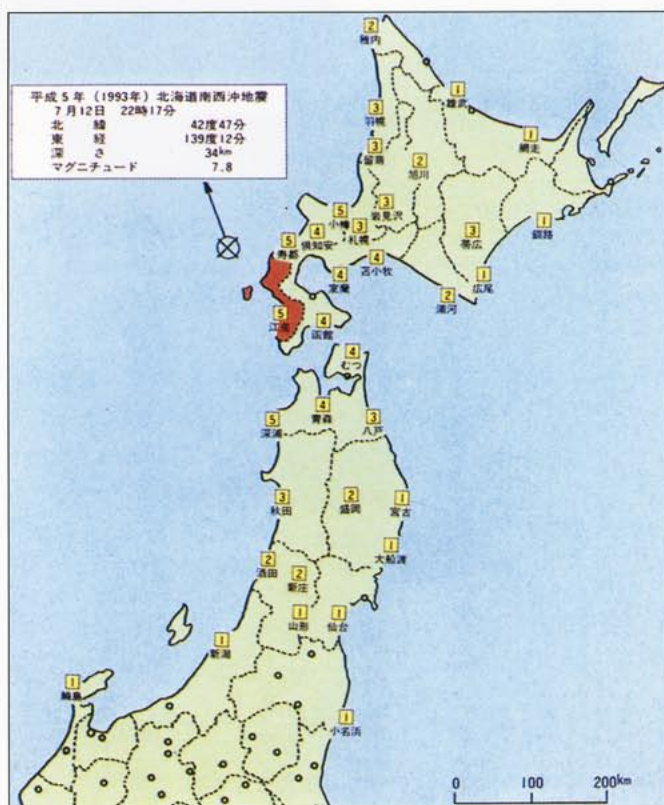


1.地震



▲地震発生直後、大規模な崖地の崩壊により、ホテルとレストラン、灯油備蓄タンクが一瞬のうちに飲み込まれ、29名の尊い命が犠牲となった奥尻地区 (朝日新聞社提供)



地震の震源は、北海道南西沖（北緯42度47分、東経139度12分）で、震源の深さは34km、マグニチュード7.8。

奥尻島はもとより、北海道や東北地方の各地で震度5の強震から震度4の中震を記録しました。

震源域は奥尻島を含むと推測され、奥尻島は地震計が設置されていないため、震度6の烈震と推定されています。

この地震だけで、地殻変動による地割れや陥没、建物の倒壊、液状化現象による田畑や道路など、各地区で大きな物的被害をもたらしました。

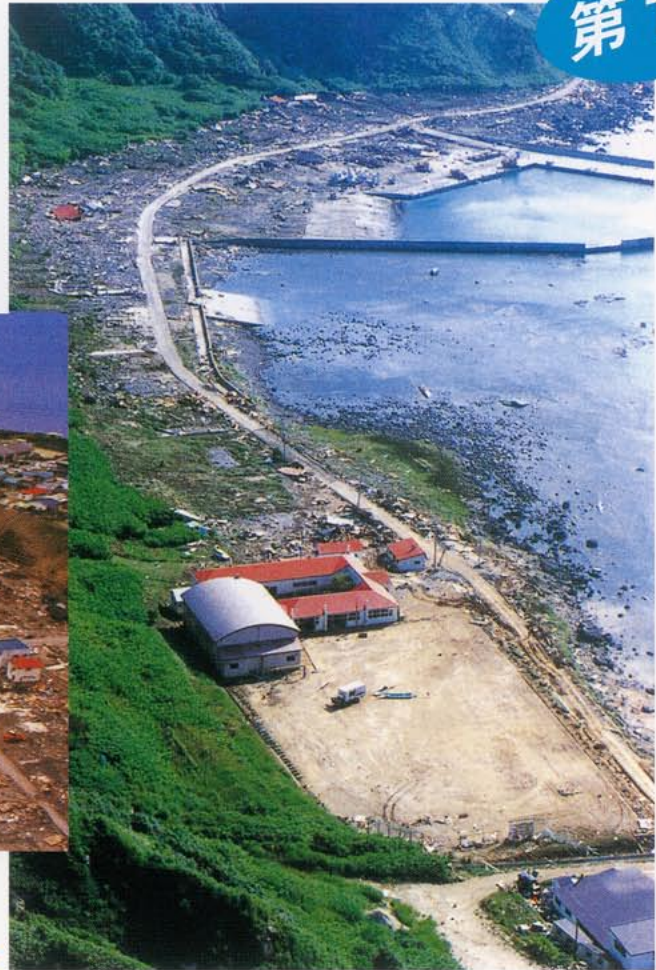
また、地震による崖地の崩壊が随所で発生し、特にホテルごと飲み込んだ奥尻地区での崖地の崩壊は、島外からの宿泊客を含めて29名もの方々が犠牲となったり、灯油備蓄タンクを押し潰して灯油が流出するなどの大惨事を招きました。

◀震度分布図（気象庁「災害時地震・津波速報」より）

2. 津波



▲青苗地区 (毎日新聞社提供)



稲穂地区 (朝日新聞社提供) ▶

▲地震発生後間もなく大津波が来襲し、密集した家々や人々を一瞬のうちにさらっていき、集落はまるで戦争の跡地のように何もかも無くなってしまった

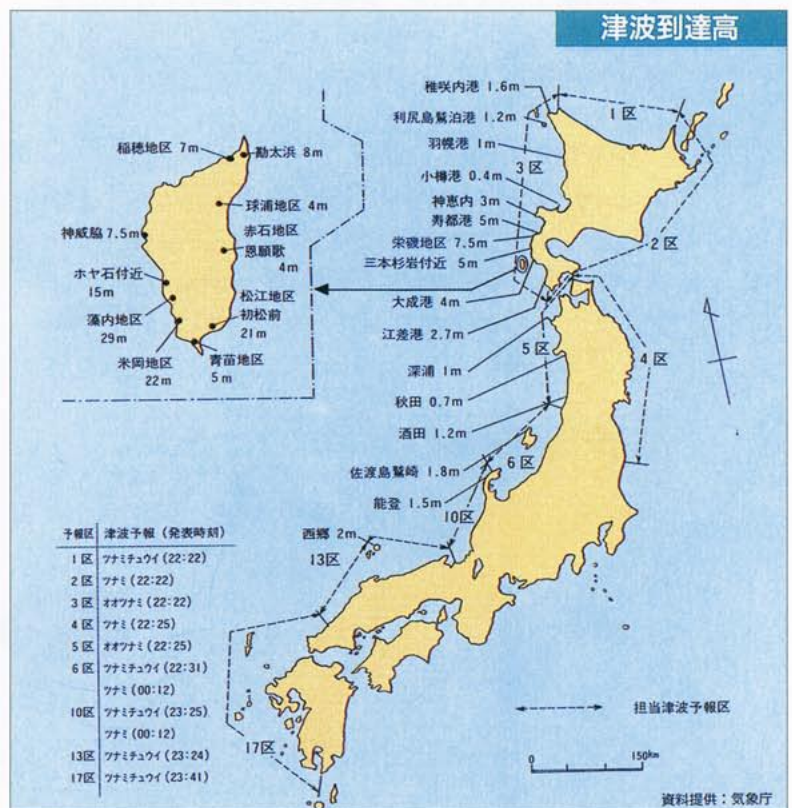
この地震に伴い、札幌管区気象台は午後10時22分に北海道の日本海沿岸に大津波警報を発表しました。

震源に近い奥尻島では、地震発生から2~3分後に津波の第1波が来襲したものとみられており、特に北端部の稲穂地区、南端部の初松前と青苗地区西海岸の藻内地区などの集落が壊滅の状態となるなどの大きな被害をもたらしました。

また、津波は奥尻島のみにとどまらず、北海道渡島半島西部(檜山管内)や東北地方にもおよび、来襲を繰り返して長時間継続しました。

津波の到達した高さは右図のとおりで、最高が藻内地区では29mにも達していますが、ある学者によると31mという説もあります。

考えられない高さの津波の来襲で家や集落が一瞬のうちに壊滅しましたが人的被害のほとんどもこの津波によるものでした。



3. 火災



▲津波の襲来直後、難を逃れた家々に今度は火災が発生し、見る見るうちに延焼が広まって大火災となり、市街地を焼き尽くしていった青苗地区 (朝日新聞社提供)

この地震に伴い、青苗地区で船舶火災2件、建物火災1件、奥尻地区で車両火災1件が発生しました。

出火原因は不明で特定できていませんが、建物火災の第1出火点が、地震発生直後の7月12日午後10時35分ごろと推定されることから、地震および津波が誘引となって出火したものと推測されています。

青苗地区の建物火災は、翌朝9時20分に鎮火するまで広範囲にわたって延焼が続いたため、津波の直撃を受けた市街地の被害にさらに拍車がかかり、青苗地区の市街地は壊滅状態におよびました。

まお、この建物火災により、2名の方が犠牲となりました。

火災の概要

地震発生時間	平成5年7月12日(月)22時17分	
震源地	北海道南西沖 (N42.47 E139.12)	
震源の深さ	34km	
地震の規模	マグニチュード7.8	
奥尻における推定震度	不明 (新聞等では震度6の報道あり)	
出火時間	第1出火点 平成5年7月12日 推定22時35分	第2出火点 平成5年7月13日 推定0時15分
覚知時間	第1出火点 平成5年7月12日 推定22時40分	第2出火点 平成5年7月13日 推定0時45分
鎮圧時間	平成5年7月13日	8時35分
鎮火時間	平成5年7月13日	9時20分
出火種別	建物	
出火場所	第1出火点・奥尻町字青苗233番地付近一帯	第2出火点・奥尻町字青苗160番地付近一帯
出火原因	不明 (特定できず)	
死傷者	死者2名	
焼損程度	焼損棟数 189棟 全焼 189棟	
焼損面積	18,972.77㎡	
損害額	1,244,293千円	
罹災世帯数等	108世帯	311人
青苗地区	世帯数	504世帯
	人口	1,401人

火災種別	出火日時	出火場所
船舶火災	7月12日22時30分頃	奥尻町字青苗、青苗漁港内
船舶火災	7月12日22時30分頃	奥尻町字青苗、青苗漁港内
建物火災	第1出火点 7月12日 推定22時35分頃	第1出火点 奥尻町字青苗 233番地付近一帯
	第2出火点 7月13日 推定0時15分頃	第2出火点 奥尻町字青苗 160番地付近一帯
車両火災	7月13日4時30分頃	奥尻町字奥尻309番地の3

(檜山広域行政組合消防本部資料より)